



日本妖怪博物館所蔵
「(仮称)稲生物怪録絵巻」(部分)
江戸時代



小泉八雲の肖像 松江時代1891
(提供・小泉八雲記念館)

講師同行企画

国立民族学博物館友の会 第82回体験セミナー

もののけ怪道をゆく

いのうもののけろく

稲生物怪録と小泉八雲を歩く

講師：植田 千佳穂(三次市学芸アドバイザー) 小泉 凡(小泉八雲記念館館長)

山中 由里子(国立民族学博物館教授)

期間：2019年10月13日(日)～14日(月・祝)

費用：コースA 52,000円

コースB 56,000円 小泉八雲朗読のしらべに参加

(行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む)

募集人数：25名(最少催行人数17名)(着順)

※お申し込み方法、参加費に含まれる諸費用等の注意事項は裏面をご覧ください。

国立民族学博物館(みんぱく)の特別展「驚異と怪異— 想像界の生きものたち」の開催にあわせて、怪異譚「稲生物怪録」の舞台となった広島県三次市と、『怪談』の作者 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が不思議な話を蒐集した島根県松江市を訪問します。不安や恐怖の心が生み出した想像力の産物「怪異」。作品の舞台を歩きながら、怪異が生まれる背景、その精神的な営みをさぐります。

ツアーのポイント

怪異の舞台を歩く!

「稲生物怪録」にたびたび登場する三次の寺社、八雲が不思議な話を蒐集した松江の城下町……。作品に登場する実在の地を歩いて、怪異が生まれる背景をさぐります。

2019年春開館。三次もののけミュージアムを訪問!

妖怪研究者 湯本豪一氏が蒐集した妖怪関連資料約 5000点を収蔵する



三次もののけミュージアム
(提供・湯本豪一記念日本妖怪博物館)

湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)を見学。「稲生物怪録」の展示も充実。



フィラデルフィア時代の八雲
(提供・小泉八雲記念館)

小泉八雲の世界を耳で楽しむ!

俳優 佐野史郎とギタリスト 山本恭司が朗読と音楽で表現する「小泉八雲朗読のしらべ」を鑑賞(自由席)。2019年のお題は「怪談—恐怖の底より聞こえる救いの呼び声」です。
※コースBにご参加の方が対象

稲生物怪録

江戸時代中期に生まれた怪異譚。16歳の少年 稲生平太郎が魔王のひと月にわたる脅し(日々異なる妖怪や珍現象が襲います!)に耐え抜くという物語。系統の異なる語り本のほか、絵本や絵巻にも仕立てられ、日本全国に広まりました。

小泉八雲

『怪談』『知られぬ日本の面影』など再話作品や紀行文で知られる文筆家。幼少期をアイルランドで過ごした経験が、のちの人格形成に深く影響したといわれています。40歳のときに松江に移り住み、小泉セツの協力のもと、同地に伝わる不思議な話を蒐集。

旅の行程

10月13日(日) 稲生物怪録の舞台を歩く

集合：JR福山駅(12時半頃)

- 2019年4月にオープンした三次もののけミュージアムへ。物語成立の経緯、諸本への展開や後世への影響など「稲生物怪録」について理解を深めます。同館では企画展「華麗・妖美なる妖怪絵巻の世界」も開催中。怪異を生み出す人間の心の働きについても考えます。
- 「稲生物怪録」の舞台を散策。平太郎が山頂で肝試しをおこなった比熊山(車窓見学)のほか、太歳神社や西江寺など、物語に登場し現存する寺社を巡ります。[三次市内現地講師のご案内はここまで]
- 島根県松江市に移動。玉造国際ホテル RIVAGE CHORAKU にて宿泊。

10月14日(月・祝) 小泉八雲の物語世界を歩く

- 小泉八雲記念館へ。八雲の没後、弟子たちの寄付で建てられた記念館。2016年に大幅に増床リニューアルされ、直筆の原稿や書簡、初版本、遺愛品200点の展示から八雲の人生と思想を紹介。八雲のまなざしをとおして日本の怪異を考えます。
- 八雲ゆかりの地を散策。小泉八雲旧邸を皮切りに、八雲が石狐を好んだ城山稲荷神社、「飴を買う女」の墓があるとされる大雄寺、夜ごと町に出て暴れる石の大亀がある月照寺などを巡ります。[松江市内現地講師のご案内はここまで] 昼食後、妻セツが八雲と出会う前に将来を占った八重垣神社、「日本三大菓子処」とうたわれる松江の和菓子屋にも立ち寄ります。

★コースAはここまで。解散：JR松江駅(15時半頃)

- 小泉八雲朗読のしらべに参加(自由席)。八雲が記した『怪談』の世界を耳で楽しみます。

★コースBはここまで。解散：JR松江駅(18時頃)

※上記のスケジュールは現地事情や荒天などの事由により変更となる場合がございます。

お問い合わせ・お申し込み先は裏面をご覧ください。